

## 近年の研究紹介

萩原直幸 研究室 2014.10.31

### セナンクールの小説『オーベルマン』の日本における 受容に関する研究

調査・研究の結果、この作品は辰野隆、市原豊太、渡辺一夫、土居寛之などのフランス文学者のみならず、芥川龍之介、辻潤、小林秀雄、大江健三郎などの作家や批評家などにも読まれ、何らかの影響を与えていることが分かった。

【Hagiwara Naoyuki, *Oberman ou les aléas d' une œuvre au pays du soleil levant : Réception du roman de Senancour au Japon*

岡山大学文学部研究叢書 34, 2012 年】

### フランス文学作品の検閲に関する研究

戦時中、岩波文庫の『アミエルの日記』、ジッド『ソヴェト旅行記』、フロベール『ボヴァリー夫人』などが出版警察による検閲・削除処分を受けた。『オーベルマン』上巻第1刷（1940）にも謎の空白の2行がある……。

【萩原直幸「岩波文庫の検閲と『オーベルマン』の一部削除について」（日本フランス語フランス文学会中国・四国支部会誌『フランス文学』（第30号）掲載予定（2015）】

### 受験生へのメッセージ

フランス文学や映画に関心のある方、一緒に作品を読んだり鑑賞したりして、さらに研究を目指しませんか。これまでの専門は問いませんが、フランス語の知識があると役に立ちます。